

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520443

研究課題名(和文) 近現代日本における性・身体・権力 差別と性的倒錯の起源についての文学的研究

研究課題名(英文) Sex, Body, Authority in Modern and Pre-Modern Japan-Literary Study of the Origin of Discrimination and Sexual Perversion

研究代表者

山本 ひろ子 (Yamamoto, Hiroko)

和光大学・表現学部・教授

研究者番号：90318709

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、身体と性を起点に近現代日本思想史を再構築することを目指し、三度のシンポジウムを開催し、また研究発表や論文執筆を行なった。円地文子や中上健次、折口信夫といった、近代にあって「前近代的なるもの」の息吹を体現した作家・研究者たちのテキストを通し、これまで注目されなかった「被差別と性」、「仮面と性」の地平を発見した。円地が能面への解釈から生み出した「女の家」の物語、中上の「兄妹心中」への固執ともうひとつの路地・泉州南王子村、折口が描いた翁と女猿楽の造形。日本の古層文化との緊密な触れ合いのなかで生まれた作品群が、近代日本のセクシュアリティの特質を鋭く照射していることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to reconstruct the history of modern and pre-modern Japanese philosophy having its basis on the idea of body and sex. So far, three symposia have been held, presentations and papers have been achieved. Through examining texts written by such authors as Enchi Fumiko, Nakagami Kenji and Origuchi Shinobu who embodied the sense of pre-modernity in the modern era, the not-yet-cultivated areas of sex and being discriminated and sex and persona have been made to surface: for example, the story of woman's house created by Enchi through examining masks of Noh play, Nakagami's adherence to the double suicide with his sister, and his finding the alleys in the discriminated area of Minami-Oji Village in Senshu, the relationship of Okina and Onna-Sarugaku depicted by Origuchi, etc. Our study made clear that the works created through the close literary contact with the ancient strata of Japan throw a new light on the characteristics of sexuality in the modern Japan.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、 各国文学・文学論

キーワード：文学論 思想史 民俗学 翁 仮面 セクシュアリティ 差別 女

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者は『物語・差別・天皇制』(五月書房、1985年)で近江の被差別民と宗教・芸能文化に関する論文を書き、作家の中上健次を交えた討論を行なっている。

(2) それから約三十年間のあいだに、民間芸能や寺院の祭礼の現場に足繁く通い、調査・記録につとめると同時に、「摩多羅神紀行、あるいは服部幸雄『宿神論』の彼方へ」(『文学』2009年7、8月号)をはじめとして、被差別の文化・宗教・芸能に関連する二、三の論考を執筆してきた。

(3) 本研究に連なるテーマを研究主軸のひとつに据える直接の契機となるのは、2009年、被差別部落である旧南王子村の口誦文学や伝承を60年以上に亘って調査・研究してきた民俗学・仮面研究・詩人の乾武俊(『黒い翁』、『民俗文化の深層』の著者)との出会いであった。

(4) 乾氏との出会いをきっかけに、中上健次の路地の文学と、乾武俊の見た旧南王子村の文化とが、申請者の研究蓄積を介してリンクしはじめた。これまでほとんど光を当てられてこなかった「紀州」と「南王子」という視座には、「身体」と「性」を起点に近現代日本思想史を再構築するための鍵が、いまだ十分に解明されぬまま、眠っているかも知れない。そのような着想から、被差別部落や被差別民が培ってきた文化の豊かさ、さらにはそうした文化が近代に至ってなお大きな作用を及ぼしていく文学的・思想的な文脈を、これまでとは異なる手法によって開示し、その成果を広く社会に投げかけるべく、本研究を始動するに至った。

## 2. 研究の目的

(1) 性と身体において「倒錯」や「社会的逸脱」として認知され排除されることが、「差別」の構造にどう組み込まれ、かつ機能しているかにつき、中世・近世の芸能や語り物と近現代文学を中心にして分析し、この性的倒錯と差別、聖性の関係性の構造を明らかにする。さらに「倒錯」の概念を、社会・習俗の近代的編制から取りこぼされたもの、および近世に編制された社会的諸範疇の越境、転覆の意志へと敷衍し、最終的には旧来の権力分析とは異なる視点から、「身体」と「性」を基点にした近現代日本の思想・文化史の新たな書き直しを目指す。

(2) (1)の問題をより深く掘り下げ、読み解くにあたり、「宗教芸能」という特有の概念軸を設けることによって、脱領域的な視角と方法で日本文化の核心へ迫ってゆく。被差別部落の伝承と芸能、また寺院の法会における呪術的身体とエロス、「翁」や「仮面」、

「芸能者」という境界的な身体やドラマツルギーに着目し、フィールドワークや聞き取り調査、記録作業、執筆といった研究活動を行なう。さらに、これまで「芸能史」や「民俗学」といった狭い領野に閉じ込められがちであった「翁」や「仮面」の問題をより有効な視座へと開いてゆくために、さまざまな分野の研究者を一同に集めたシンポジウムを開催。これまでになかった、学際的な問題共有の場を構築する。

(3) 旧南王子村は日本の被差別部落の民俗伝承や歴史過程を考える上では外すことのできない重要な地域である。ここで長年教鞭をとりつつ部落の伝承や文学などを研究されてきた乾武俊氏にご協力を願い、同地区での聞き取り調査を行うことで、被差別民による豊かな伝承文化の一端を一般に公開、紹介する。

## 3. 研究の方法

(1) 民間芸能や寺院の祭礼などへのフィールドワークを重ね、文学研究と並行して在地の口承文芸・芸能・伝承といった、「身体」をめぐる思惟と表現についての研究を深める。

(2) 大々的なシンポジウムを開催することで、仮面や芸能、翁に関する先鋭的な研究を行なっている研究者たちを一同に集めて学際的な議論を行ない、これからの学問的な課題を明らかにする。

(3) 二ヶ月に一回程度、私塾「成城寺小屋講座」で研究会を開催。申請者やゲストスピーカーが研究報告・討論を行なう。多数の研究者を集めたシンポジウムでは時間の関係上十分にできなかった、講師一人につき一時間以上に及ぶ本格的な研究報告や、より濃密で専門的な議論を、たつぷりと用意された時間のなかで行なう。

(4) これらの過程を経て得た知見と問題意識を駆使しながら、講演を行ない、また論文を執筆することで、申請者自身の思考や発見、研究成果を広く一般に公開する。そこで新しい問題提起を行なうことで、さらなる議論の展開をうながし、宗教・芸能・文学研究の将来に資す。

## 4. 研究成果

(1) 輪王寺(栃木県日光市)、毛越寺(岩手県平泉市)、多武峰(奈良県桜井市)、清水寺(島根県安来市)など天台寺院の法会と芸能に関する研究調査を行い、2011年10月には共著『日光—その歴史と宗教』(春秋社)を刊行した。

(2) 三度にわたる比較的大規模なシンポジ

ウム（「和歌浦・仮面フォーラムー芸能と仮面の向こうがわへ」、「面と語りのドラマツルギーー芸能と仮面のむこうがわへ（2）」、「仮面フォーラムⅢ 宗教芸能の深層へ」）を行ない、多くの一般参加者の前で、仮面や芸能、翁に関する先鋭的な研究を行なっている研究者たちによる講演と議論を行なった。これまでは室町時代以降の「能楽」の研究に集中していた「翁」や「仮面」への探求を、「仮面様式」研究（山内登貴夫、乾武俊、大河内智之、大谷節子）、人類学（川田順造）、「民間芸能」研究（櫻井弘人、宮嶋隆輔）、「民間信仰」研究（梅野光興）、「韓国芸能」研究（伊藤好英）、「寺院芸能」研究（西瀬英紀）、「宮廷芸能」研究（沖本幸子）、「呪師」研究（宮本圭造）、「被差別部落・芸能民」研究（乾武俊、友常勉）、「能・狂言」創作・実演（乾武俊、小笠原匡、槻宅聡）といった実に多様な視角、方法へとひらき、フォーラムの場に凝縮して提示。さらに、その議論を受けた山本がフォーラムの最後にまとめた問題提起のコメントを行なうことで、専門的な研究のみによっては得られない脱領域的な視座や知見を発表した（宮廷御神楽と翁の関連性、宗教者のトランスとウソフキ面の面容の関連性、常行堂の「結社の神」である摩多羅神と翁との関係性および非関連性、翁が舞台上で仮面を着けて芸能をする意味について、等々）。従来の翁研究が基本的に「能楽の翁」を中心に据えたものであったのに対し、記録年代は新しいが能の成立以前に遡る可能性を秘めた民間の「翁」や「仮面」の信仰的・芸能的世界を明らかにし、一般参加者とも広く問題を共有した。そのことは同時に、現在も伝統芸能として広く親しまれている「能楽」の源流に位置する「翁」の芸能の諸相を描き出すことによって、日本文化の生み出した最大の芸術的達成のひとつである「能」が、呪術的・信仰的な世界と密接に関わって成立したということを示すことにもなった。なお第二回の仮面フォーラムに際しては、和光大学図書情報館・梅根記念室にて、愛知県北設楽郡東栄町の古戸田楽仮面と、川田順造氏所蔵のアフリカ仮面を展示。これは古戸田楽面の大部分を一同に集めて展示する初の試みとして極めて貴重なものであり、仮面造形の多様さや文化史的な意義を一般に紹介することができた。また集大成となった第三回の仮面フォーラムの内容は「仮面フォーラムⅢ 宗教芸能の深層へ 報告集」として冊子化し、研究者および一般に向けて頒布した。こうした試みが上村忠男氏（イタリア思想史）の連載「ヘテロトピア通信」に「紀州・和歌浦での仮面フォーラム」（『みすず』2013年5月号）と題してレポートされたことも、一連の仮面フォーラムが多方面に与えたインパクトの大きさを示しているように思われる。

（2）旧南王子村で聞き取り調査を行い、乾

武俊氏の講演を冊子「和歌浦◎仮面フォーラムー芸能と仮面のむこうがわへ 資料集」に活字化して頒布。さらに同地区と近隣地区での盆踊りの映像を撮影し、記録活動を行なった。

（3）「和歌浦・仮面フォーラムー芸能と仮面の向こうがわへ」で講演を行なったほか、二つの雑誌論文を執筆。円地文子や中上健次、そして折口信夫といった、近代にあつて「前近代的なるもの」の息吹を体現した作家・研究者たちのテキストを通して、これまで注目されなかった「被差別と性」、「仮面と性」の地平を発見、問題提起した。円地が能面への解釈から生み出した「女の家」の物語、中上の「兄妹心中」への固執ともうひとつの路地・泉州南王子村、折口が描いた翁と女猿楽の造形一。日本の古層文化との緊密な触れ合いのなかで生まれた作品群が、近代日本のセクシュアリティの特質を鋭く照射していることを明らかにした。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

① 山本ひろ子、作劇の想像力『花の松』を読む、現代思想、査読無、2014年4月増刊号、2014、78-94

② 山本ひろ子ほか、仮面フォーラム 語りと面のドラマツルギーー芸能と仮面のむこうがわへ 提題にかえて、東西南北2014和光大学総合文化研究所年報、査読無、2014年号、2014、318（02）-315（05）、

[http://www.wako.ac.jp/\\_static/uploads/contents/managed\\_html\\_file.name.9352be8817124cf4.3331352d3331382d30322d30352de99da22de5b1b1e69cac2d3034e6a0a12de69c80e7b582572e706466/315-318-02-05-%E9%9D%A2-%E5%B1%B1%E6%9C%AC-04%E6%A0%A1-%E6%9C%80%E7%B5%82W.pdf](http://www.wako.ac.jp/_static/uploads/contents/managed_html_file.name.9352be8817124cf4.3331352d3331382d30322d30352de99da22de5b1b1e69cac2d3034e6a0a12de69c80e7b582572e706466/315-318-02-05-%E9%9D%A2-%E5%B1%B1%E6%9C%AC-04%E6%A0%A1-%E6%9C%80%E7%B5%82W.pdf)

③ 山本ひろ子、その先の異郷へ／隠れ里幻視行一折口信夫の初期作品から一、文学、査読無、13巻第6号、2012、101-117

④ 山本ひろ子、紀州の向こうへーキンジニヤニヤと「兄妹心中」、そして南方的想像力、別冊太陽 没後二〇年中上健次、査読無、199巻、2012、166-171

〔図書〕（計2件）

① 山本ひろ子ほか、山本ひろ子・成城寺小屋講座 編集・発行、仮面フォーラムⅢ 宗教芸能の深層へ 報告集、2014、64

② 菅原信海、田邊三郎助、山本ひろ子ほか、  
株式会社春秋社、日光—その歴史と宗教—、  
2011、169—202

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 ひろ子 (YAMAMOTO HIROKO)

和光大学表現学部教授

研究者番号：90318709